

すくわくプログラム 「音」



いずみの園保育園
2024年度 活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音を使った表現を楽しもう

<テーマの設定理由>

いずみの園保育園では、毎週リトミックを行い音にふれ、歌ったり、リズムを楽しんだり、楽器に触れたりしています。そのため、今回さらに身近な音を探求し、音を使った表現の楽しさを知ってもらおうと、「音を使った表現を楽しもう」というテーマにしました。

2. 活動スケジュール

- ①生活の中で好きな音、面白い音など色々な音を見つける。
- ②見つけた音を言葉や声に出して表現してみる。
- ③グループで考えた音をみんなに発表してみる。
- ④実際に楽器や物を使って表現してみる。
- ⑤クリスマス会のパネルシアターの台本の中で、表現できそうな音を探し、どんな音で表現できるか自分たちで考えてみる。
- ⑥クリスマス会で、パネルシアターに自分たち考えた音をつけ、実際に音響として参加する。
- ⑦様々なものを音と体で表現してみる。
- ⑧「おんぷらんと」という2人組のパフォーマーを園に招き、音を使った表現を楽しむ。

3. 探究活動の実践

◆活動内容①（11月26日）

身近な生活の中で好きな音、面白い音を探してみるために、今聞こえる音に耳を済ませてみた。「電車の音」「水の音」など声があがった。

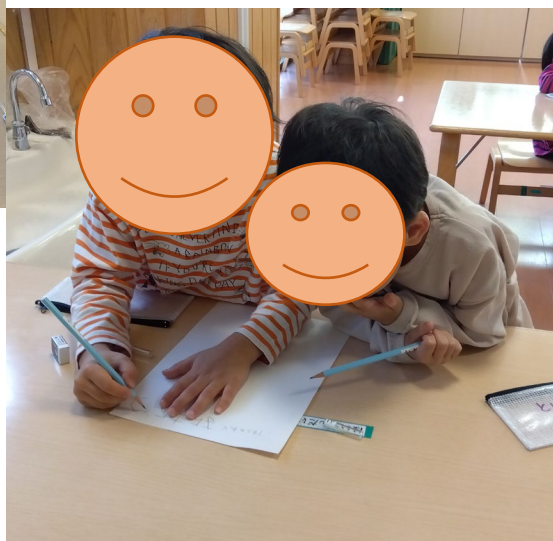
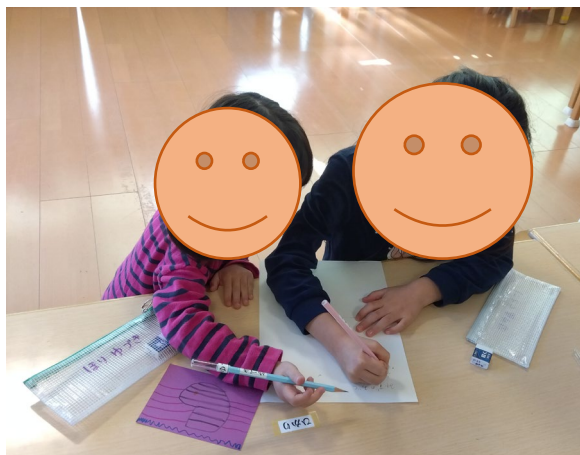
そこから、想像が膨らみ、散歩中に聞こえる外の音「小鳥の声」「車の音」「バイクの音」「水の音(滝)」「雨が傘に当たる音」「バックの中で水筒や筆箱がぶつかる音」など色んな音に繋がった。

逆に、「私はその音が嫌い」という意見もあったが、否定的ではなく同じ音でも好きな人と嫌いな人がいることを子どもたち同士面白がっていた。嫌な音は「車のブレーキの音」「ピーピー言う音」「工事の車の音」「雷の音」「テープを取る音」「風船が割れる音」など嫌いな音の方が具体的に出了。

また、「サンタさんがそりに乗る音」「みんなでご飯を食べる音」「プレゼントを開ける音」「雪が降る・積もる音」など、今の季節ならではのあと、少し先のクリスマスにちなんだ音も多くあがった。

◆活動内容②（11月26日）

見つけた音を言葉や声に出して表現するために、2人～3人のグループに分かれ紙に書き出す作業をした。みんな声に出しながら書いていた。声にした擬音語を平仮名で表すことは難しそうではあったが、迷うことなくかけていたことに驚かされた。保育者に「〇〇〇」ってどう書くの？などよく質問があり、声にした言葉を正確に平仮名で表現したいようで、楽しんでいるように見えた。絵で表現してみようとする子もいて、音を絵で表現してみるのも面白そうだった。



◆活動内容③（11月28日）

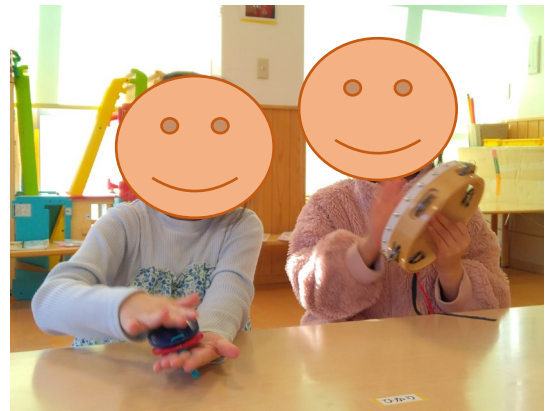
グループで考えた音をみんなに発表してみる。「赤ちゃんのおもちゃがなる音が好き」と言うと、「どんな音？」と質問が出て、「からんからん」って音だのと伝え、「へーそうなんだ」と、自分の知らない音にも興味を持つ姿も見られた。また、「鈴の音が好き」という発表があると、「わかるー!シャンシャンだね」「ちりんちりんだよ」など、同じ音でも表現の仕方に違いがあることに気づいた様子。違っていても誰も否定することなく受け入れていた姿があった。

◆活動内容④（11月28日）

実際に園にある楽器を紹介し、どの楽器がどんな音がするのか聞いてもらった。ギロの音を聞かせると「ドアが開く音みたい」「ビービーで電気の音がする」など、自分たちで何の音に似ているのか探し始めた。

鉄筋を低音から高音にスライドしながら音を鳴らすと、「楽しい！」と声があがり、今度は高音から低音にスライドすると「なんだか元気がなくなるー！」と言って、「もう一回やって！」とリクエストがあり、何度かやると音に合わせて、机に伏せてぐったりする真似や、スッと背筋を伸ばして笑顔で元気になる真似をしてみたり、体全体で音に合わせて気持ちを表現する姿が見られた。

木琴を叩くと、「トントントン、やどやさん！」とクリスマスの生誕劇の一部の歌を歌い始め、生誕劇を音でも表現できるのではないかと考えた。子どもたちからもやってみよう！！という声があがったため、さらに音の探求を続けてみることにした。



◆活動内容⑤（12月）

クリスマス会のパネルシアターの台本の中で、表現できそうな音を探し、自分たちで書き込んでもらった。子どもたちがとてもやる気になっており、表現する音の楽器や声までも自分たちで考えて書き込んでいた。

◆活動内容⑥（12月12日）

みんなが考えた音を発表した。「天使が現れる→シンバル・鉄筋・トラアングル」など、色々な楽器での表現方法があった。実際に再度楽器の音を聞きながら、それぞれ担当者が表現方法まで決めた。トライアングルを鳴らす回数や、タンバリンを叩くのか振るのか、など試行錯誤しながら自分の思う音を探した。

◆活動内容⑦（2月）

クリスマス会での経験を通して、音により親しみ興味を持てるようになった様子。音を使った創造の大切さ、表現の楽しさをより知ってもらうため、音を使って表現することを仕事としているプロの方を見てもらおうと『おんぷらんと』という小人のサーカスを園に招く計画をした。

◆活動内容⑧（3月13日）

言葉を使わない「おんぷらんと」さんによる、パントマイムやジャグリング・マジックなど音を使ってコミカルに表現しているパフォーマンスを見た。タッチをする時の「キラン!」「べちゃ!」といった音や、ジャグリングが成功した時・失敗した時の効果音などをうまく使い分けて笑いを取っていた。またそのパフォーマンスを見た後も真似をして楽しんでいった。将来このようなパフォーマーという職業もあることも知れたのではないだろうか。”



4. 振り返り

<振り返りをふまえた気づき>

- ・好きな音がプレゼントを開ける時のビリビリだったり、サンタがそりに乗ってやってくる時のガザガザ、みんなでご飯を食べるモグモグなど、ワクワクする気もちや楽しみにする気持ちと連動していることに気づいた。実際に、好きな音を発表する時の表情はみんな笑顔で嬉しそうであった。
- ・同じ「鈴の音」であっても、子どもの数だけ「シャンシャン」「チリンチリン」など色んな表現があり、その違いを否定することなくお互いを認め合い、新しい発見として受け止めていた様子が見られた。
- ・「静かな夜」を表現するのに、「シーン」というイメージをトライアングルで表現した。音がないものを音で表現するという感性にとっても驚いた。
- ・クリスマスのパネルシアターの際、「天使がほほえむ」音を「おーっほっほっほっほ」と声で表現した力に驚いた。